

研究 成 果 報 告 書

(ふりがな) みずたに てっぺい

氏 名 水谷 徹平

現 職 (所属名、職名等) 長岡市立脇野町小学校 教諭

修了又は卒業年月、専攻又は専修コース名 平成12年3月31日

初等教育教員養成過程言語系国語コース

1 活動の概要

国語科で作文、写真に随想を重ねたわたし風「枕草子」作成を行った。また、特別活動では写真とコピーを組み合わせて「係ポスター」や隣の友だちのすてきな所を写真とことばで紹介する「ともだちポスター」作成を重ね、自己表出をする経験を重ねたり、自己肯定観を高めたりしてきた。写真や絵・模様と手書きやデジタルでのテキストを様々な組み合わせを経験した。

担任している5年生では、総合的な学習の時間での活動で学区にある保育園や老人ホーム、地域茶の間などと交流を重ねてきた。自分も成長し、相手も喜ぶプロジェクトに分かれ、ダンスや大道芸、合奏、クレイアニメや影絵制作などに取り組んだ。12月、学校に地域の方をお招きしての交流活動では、事前にそれぞれのパフォーマンスをチラシにして地域に送り、見たい発表に来てもらった。

2 本実践の成果と課題

写真があることで写真を説明したり、写っていないことを書いたりするという行為はしやすくなったと見取る。何がしか心が動いて写真を撮るわけで、「どうしてこの瞬間、これを撮ったの?」「なるほど。その気持ちを書いてみたら…?」と、教師や友だちも声をかけやすい。反面、本実践で、詩やキャッチコピーの制作など、言語感覚やセンスの比重が高いものだけを取り出して指導することの難しさを改めて感じた。技法や拡散系の思考ツールなど、手立てを示したり印象批評をできたりはしても正解がある訳ではない。教師としての出場に悩みながら、子どもが本気でよいものにしたいという思いをもてる活動するにはどうしたらいいのかを意識した。

日記や詩などをのぞく、多くの「書くこと」は読み手に向けるものである。成功させたいと願う交流会の周知・集客という子どもにとっての必然が、書く活動に対する相手意識・目的意識となった。本単元で、子どもは主体的につくり、つくりかえ、友だちの作品を認めながらもよりよくしようと相互作用をして表現を練り上げていく姿が数多く見られた。共通の目的、多様な相手を対象とした子ども発の言語活動を行うことで、「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ」とされるアクティブ・ラーニングとなり、主体性の発揮、多様な価値と相互作用による学び合いに機能したとを感じる。

チラシ作りでは23チーム中18チームがなにかの修正を加えた。また、修正前後で使われた表現技法を見ると、英語表現、語尾の省略、倒置法などが大きく増加した。直接説明するのではなく、言い換えたり、言わずに余韻を残して読み手に想像させたりしようとした思考が働いたと考えられ、表現の工夫を吟味した様子がうかがえる。

「伝えたい思いや考えを書きたい」と子どもが自然に動き、考えるような活動をつくることが、汎用的な資質・能力を学習につながる。子どもの意識に沿った自然な活動として教師

資料3 写真とことばを組み合わせせて友だちのいい所を表現した「ともだちポスター」(月1回作成)



資料4 総合で作成したチラシ・ポスター

日時 12月16日
13:10~14:45

場所 脇野町小学校

内容
影絵 映画
ダンス
マジック
大道芸を
発表 体験
お茶会

注意事項
ろうかを走らないで
ください

**ハッピー
脇小
発表会**

なないろフェスティバル

日時
12月16日
13:10~14:45

**脇小だ!
発表だ!
お茶会だ!**

内容
大道芸・ダンス
・マジック・動画・
影絵・ウッドアニメ
のチームが発表します

場所
みんなの広場